

(仮訳) G7 デジタル・技術大臣会合共同声明 2024 年 10 月 15 日

1. 我々、G7 デジタル技術大臣は、2024 年 10 月 15 日、イタリアのチェルノッピオ・コモにおいて、アレッシオ・ブッティ政務次官（技術革新担当）の議長の下、2024 年 3 月 15 日にイタリアのトレントで行われた前回会合で示された公的部門における人工知能（AI）、デジタル政府、デジタル・アイデンティティ及び広島 AI プロセスの成果に対するコミットメントを前進させるために会合した。
2. 我々は、経済協力開発機構（OECD）及び国連教育科学文化機関（ユネスコ）のナレッジパートナーとしての取組に感謝する。
3. 我々は、デジタル技術が我々の社会に積極的に貢献することを確保しながら、それによってもたらされる課題や機会に対応するための協力的な環境を促進することに引き続き取り組む。我々は、グローバル・デジタル・コンパクトを歓迎し、そのコミットメントの実施とフォローアップに向けた包摂的かつ透明性のあるマルチステークホルダー・プロセスを支援することを期待している。特に、インターネット・ガバナンス・フォーラムをさらに強化することで、これを支援する。また、海底ケーブルインフラの展開、修理、保守に関する原則を含む、グローバルにデジタル化された世界における海底ケーブルの安全性と強靱性に関する最近の共同声明を歓迎する。
4. 我々は、政府のデジタル・トランスフォーメーションを前進させ、公的サービスの提供を改善する、安全、安心で、信頼できる AI の可能性を認識する。我々は、倫理的配慮を考慮しつつ、法の支配、民主主義、人権及び、特にプライバシー権など基本的自由を尊重し、個人データと知的財産を保護する方法で、公的部門による AI の開発、導入、利用に関する枠組みを提供する、OECD 及びユネスコの支援の下で提供された、公的部門における AI ツールキットを歓迎する。我々は、ツールキットが公的部門と、関連する場合には他の利害関係者を支援し、AI の機会を利用およびリスクを管理し、また原則を実行可能な政策に反映することを確信している。
5. 我々は G7 メンバーがそれぞれ異なるアプローチを取っていることを認識しつつ、引き続き、人間中心で、強靱で、信頼できる、権利を尊重した、AI やデジタル公共インフラから恩恵を受ける可能性のあるデジタル公的サービスを促進することにコミットする。また、デジタル公的サービスの提供およびデジタル公共インフラの促進におけるクラウドコンピューティングやその他のツールの重要性を認識する。この観点から、我々は OECD の支援の下で策定したデジタル政府に関する大綱を G7 各国のベスト・プラクティス及び解決策を紹介する手段かつ今後の協力を導くものとして歓迎する。
6. 我々は、より包摂的なデジタル政府を推進し、AI によって実現するデジタル政府サービスを促進し、全ての人がデジタル・トランスフォーメーションの恩恵を受けるための国家的取組及び国際的協力の重要性を強調する。
7. 我々は、安全で、信頼できるデジタル・アイデンティティの解決策及び国境を越えた相

互運用性の促進に関する継続的な機会と課題の重要性を認識する。我々は、OECD の支援によって提供される G7 メンバー間のデジタル・アイデンティティに関する協力のための戦略的提言を含む、デジタル・アイデンティティ・マッピングエクササイズを歓迎する。我々は、OECD に対し、適用範囲を拡大し、より広範囲の協力と将来の相互運用性を促進するために実施マッピングを G7 外の主要なパートナー間に適切に普及し、そのフォローアップを G7 デジタル技術作業部会に報告することを求める。

8. 我々は、OECD が 2024 年 7 月 19 日から 9 月 6 日まで実施した、「高度な AI システムを開発する組織向けの広島プロセス国際行動規範」のための報告枠組みのパイロット版から得られた結果について議論した。我々は、企業、アカデミア、市民社会、国際機関、政府といった真のマルチステークホルダーでの共同作業であったこの期間に、報告枠組みをより良くするために貴重な支援をいただいた全ての参加組織に感謝の意を表す。この点において、我々は、イタリア議長国による広島 AI プロセス報告枠組みの OECD パイロットの要約に留意する。我々は、OECD 及び参加組織との協力の下、年内に報告枠組みを前進させることを目指し、策定に向けて引き続き取り組む。
9. 我々は、国際行動規範の今後の報告枠組みに自発的に参加し、実施している組織を特定するために使用できるブランドの策定に向けた取組を、イタリア議長国下で、続けることを期待する。
10. 我々は、公的部門におけるものを含む安全、安心で、信頼できる AI を推進するための、我々それぞれの取組を追及するための政策、ツール及びメカニズムと、デジタル政府やデジタル・アイデンティティ・アプローチに関する対話を G7 やその他の関連するフォーラムを通じて継続する予定である。我々は、全ての人に恩恵をもたらす AI の更なる発展に遅れないようにし、AI ガバナンス・アプローチ間の相互運用性を高める取組を強化するためのコミットメントを再確認する。
11. 我々は、2025 年のカナダの G7 議長国に期待するとともに、イタリアの 2024 年の G7 議長国の成果を継承し、今後継続して積み上げていくことを期待する。